

全電源喪失の記憶

証言 福島第1原発

7

■ 第4章「東電の敗北」

「野口-SR弁、早く」。3月

14日後4時28分、福島第1原発免

震重要棟の緊急時対策本部で、所長

の吉田昌郎(56)が発電班副班長の野

口秀一(54)に怒鳴った。この約3時

間前、2号機原子炉に注水を続けて

きた原子炉隔離時冷却系(RCIC)

と呼ばれる装置が止まった。

RCICは11日の全電源喪失の直

前、1、2号機中央制御室で作業管

理グループの大野光幸(51)が起動さ

せ、約8時間とみられた駆動時間を

大幅に超えて動き続けた。

吉田が後に「天の助けだった」と

振り返るように、2号機RCICが

動いていなければ1、3号機が同時

冷却系装置が停止

しなくなった可能性もある。

そのRCICによる注水が止ま

り、炉内圧力が上昇した。もう再起

動するための電源はない。代わりに

海水を注入するには、逃がし安全弁

(SR弁)を開き、蒸気を圧力抑制

室に出して炉内を減圧する必要があ

った。

野口は対策本部に聞こえるよう

「伊沢君、いくよ」

野口は制御室との専用電話で、当

直長の伊沢郁夫(52)に言った。制御

室のスイッチでSR弁を操作できる

ようど、復旧班が車のバッテリー10個を

持ちこんで来た。そして再び野口と伊沢が

声をそろえた。

神様、お願いします

るように声をそろえた。

「3、2、1、操作」

運転員がスイッチを操作した。だ

が原子炉は減圧しなかった。「野口

さん、開かない」。伊沢の悲痛な声

を聞いて、野口は目を閉じた。

「3、2、1、操作」

野口は制御室で苦闘する同期入社

の伊沢は制御室前の運転員に聞こ

えるように声をそろえた。

「3、2、1、操作」

野口は制御室で伊沢が叫んだ。

「原子炉圧力、降下開始！」

午後6時2分、SR弁が開き、原

子炉の減圧に成功した。最初のSR

弁操作から約1時間半後のことだっ

た。

で炉内水が急速に蒸発しているの

だ。

「3、2、1、操作」

野口は制御室で苦闘する同期入社

の伊沢は制御室前の運転員に聞こ

えるように声をそろえた。

「3、2、1、操作」

野口は制御室で伊沢が叫んだ。

「原子炉圧力、降下開始！」

午後6時2分、SR弁が開き、原

子炉の減圧に成功した。最初のSR

弁操作から約1時間半後のことだっ

た。

で炉内水が急速に蒸発しているの

だ。

「3、2、1、操作」

野口は制御室で伊沢が叫んだ。

「原子炉圧力、降下開始！」

午後6時2分、SR弁が開き、原

子炉の減圧に成功した。最初のSR

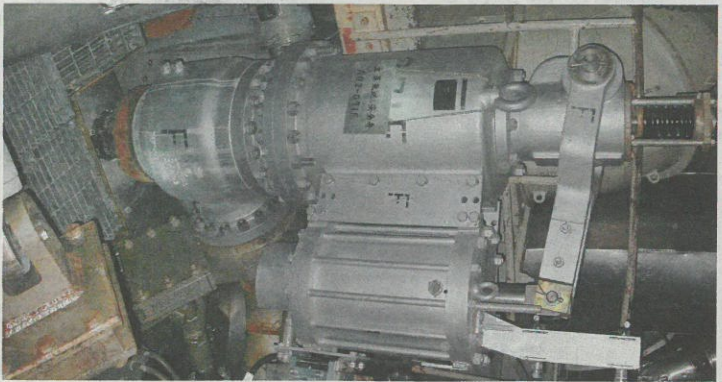
弁操作から約1時間半後のことだっ

た。

で炉内水が急速に蒸発しているの

だ。

逃げる原子炉格納容器内にある原発5号機(東京電力提供)



共同通信 高橋秀樹